

## 高校生の喫煙に関する知識・態度・行動からみた喫煙アセスメント

村松常司 (健康科学選修) 村松園江・秋田 武 (東京水産大学) 北井美奈子 (愛知淑徳中学校)  
片岡繁雄 (北海道教育大学旭川校) 金子修己 (中部大学) 村松成司 (千葉大学)

### Smoking Assessments from Knowledge, Attitude and Behavior among High School Students

Tsuneji MURAMATSU (Department of Health Science)

Sonoe MURAMATSU・Takeshi AKITA (Tokyo University of Fisheries)

Minako KITAI (Aichi Shukutoku Junior High School)

Shigeo KATAOKA (Hokkaido University of Education, Asahikawa Campus)

Osami KANEKO (Chubu University) and Shigeji MURAMATSU (Chiba University)

#### I. はじめに

高校生の喫煙・飲酒・薬物乱用に関する保健指導の手引<sup>1)</sup>によると、青少年に対する喫煙防止学習は「法的根拠に基づいて倫理・道徳的に悪いという指導を中心に行うよりも、たばこの諸特性について理解させ、喫煙が発育・発達の著しい青年期の身体と精神に及ぼす影響を明らかにし、自分の健康を大切に育てることが必要である」としており、喫煙防止学習が健康教育の中で重要な分野の一つであることを示している。しかし、実際には、我が国の学校教育における喫煙防止学習の取り組みの現状は必ずしも十分であるといえず、喫煙防止学習を行うためには、教師が時間を確保し、学習内容や学習方法を準備しなければならないのが実情である。

石川<sup>2)</sup>によると、喫煙防止学習の実践にあたっては、①いつ頃から始めるのが適当か、②どのような機会を使えばよいのか、③内容をどうするか、④何時間ぐらい行えば効果があるか、⑤地域・家庭との連携はどうするか、⑥指導者の研修はどのようにするのかの6点の課題を克服することが重要であるとしている。

中学生や高校生の喫煙防止学習を効果的に実践するにあたっては、石川<sup>2)</sup>の指摘する課題の克服とともに、彼らの喫煙に関連する知識の程度、態度の特性や行動の実態を把握すること、すなわち中高校生の喫煙に関するアセスメント<sup>3)</sup>も極めて重要と考える。

本研究は、高校生が喫煙に関してどの程度の知識を持ち、どのような態度や行動を持っているかを把握すること、さらにそれらの知識、態度、行動がどのように関連しているのかの「喫煙アセスメント」を目的として行った。

#### II. 研究方法

##### 1. 調査対象ならびに方法

調査は1993年6月中旬に、愛知県下の4高等学校の2年生の男女1483名(男子812名, 女子671名)を対象

に行った。調査は保健の時間を利用して無記名自己記入法で行い、その場で記入させ、プライバシーを守るために各自で封筒に入れさせて回収した。

##### 2. 調査内容

調査内容は以下に示す喫煙に関する知識10項目、態度8項目、行動4項目である。

###### (1) 喫煙の知識

①社会的知識(タバコCM, タバコの消費量)

②喫煙の健康への影響に関する知識

(一酸化炭素の作用, 喫煙開始年齢・期間, 心臓病への影響, ニコチンの依存性, 妊婦喫煙の害)

③タバコに関する知識

(副流煙に含まれる有害成分, タール等による空気汚染, ニコチンの薬理作用)

###### (2) 喫煙の態度

①認知的成分(成人の喫煙, 未成年の喫煙, 喫煙の健康への影響)

②感情的成分(喫煙行為, 喫煙者との同席)

③行為傾向成分(現在の喫煙の意思, 将来の喫煙の意思, 親となった時の子どもの喫煙)

###### (3) 喫煙の行動

①喫煙圧力行動, ②喫煙回避行動, ③喫煙拒否行動, ④現在の喫煙状況

##### 3. 分析の手順・方法

喫煙の知識、態度、行動の各項目についての比較は $\chi^2$ 検定を用いた。また、喫煙の知識10項目、態度8項目、行動4項目を得点化し、比較はt検定を用いた。

知識の得点は、正答を1点、誤答を0点とし、最高10点、最低0点とした。態度の得点は、否定的な態度の回答を1点、肯定的、中間的な態度の回答を0点とし、最高8点、最低0点とした。行動の得点は否定的な行動の回答を1点、その他の回答を0点とし、最高4点、最低0点とした。

なお、データ処理にあたっては名古屋大学大型計算機センター FACOM M-382を使用し、演算にはSPSS第9版を用いた。

### Ⅲ. 結 果

#### 1. 知識の正答率

表1に示すように、喫煙の知識の正答率は、全体では「妊婦喫煙の害」が91.8%と最も高く、次いで「タール等による空気汚染」79.6%、「喫煙開始年齢・期間」78.0%の順であった。正答率が低かった項目は、「心臓病への影響」49.3%、「タバコの消費量」35.2%、「タバコCM」21.4%であった。

性別にみると(表1)、「タバコCM」、「タバコの消費量」、「心臓病への影響」は男子が、「一酸化炭素の作用」、「妊婦喫煙の害」、「タール等による空気汚染」は女子が有意に高率であった。

家族の喫煙状況は、喫煙家庭(喫煙者がいる家庭)の者が913名(61.6%)、非喫煙家庭(喫煙者がいない家庭)の者が570名(38.4%)であったが、知識の正答率に有意差はみられなかった。

#### 2. 知識得点

知識得点(知識10項目を得点化した合計)の平均(±標準偏差)は6.43(±2.37)であった。性別では、男子6.42(±2.37)、女子6.46(±1.82)であり、有意差はみられなかった。また、家族の喫煙状況別では、喫煙家庭6.39(±2.16)、非喫煙家庭6.50(±2.12)であり、有意差はみられなかった。

#### 3. 態度特性

否定的態度の中で高率であった項目(表2)は「現在の喫煙の意思」87.3%、「喫煙の健康影響」85.6%、「将来の喫煙の意思」83.3%、「喫煙者との同席」81.2%であった。中間的態度の中で高率であった項目は「親となった時の子供の喫煙」22.2%、「成人の喫煙」16.3%、「未成年の喫煙」13.1%であった。肯定的態度の中で高率であった項目は「喫煙行為」69.3%、「成人の喫煙」64.1%、「親となった時の子どもの喫煙」40.5%、「未成年の喫煙」29.2%であった。

性別にみると(表2)、否定的態度のすべてにおいて女子が有意に高率であった。また、家族の喫煙状況別(表3)では、「未成年の喫煙」を除く7項目において

表1 知識の正答率の比較(%)

知識項目	男子	女子	合計
タバコCM	190(23.4) ※	128(19.1)	318(21.4)
タバコの消費量	310(38.2) ※※	212(31.6)	522(35.2)
一酸化炭素の作用	591(72.8)	526(78.4) ※	1117(75.3)
喫煙開始年齢・期間	619(76.2)	538(80.2)	1157(78.0)
心臓病への影響	419(51.6) ※	312(46.5)	731(49.3)
ニコチンの依存性	566(69.7)	480(71.5)	1046(70.5)
妊婦喫煙の害	719(88.5)	642(95.7) ※※	1361(91.8)
副流煙に含まれる有害成分	595(73.3)	464(69.2)	1059(71.4)
タール等による空気汚染	621(76.5)	559(83.3) ※※	1180(79.6)
ニコチンの薬理作用	579(71.3)	470(70.0)	1049(70.7)
対象者の数	812	671	1483

※※: P<0.01, ※: P<0.05 (\*検定)

「非喫煙家庭」の否定的態度が有意に高率であった。

#### 4. 態度得点

態度得点(態度8項目の得点の合計)の平均は4.75であり、認知的得点(認知的成分3項目の得点の合計点)の平均は1.75、感情的得点(感情的成分2項目の得点の合計点)の平均は1.04、行為傾向得点(行為傾向成分3項目の得点の合計点)の平均は2.08であった。

性別からみた態度得点の平均(±標準偏差)は、男子4.31(±2.04)、女子5.28(±1.73)であり、女子が有意に高得点であった。また、家族の喫煙状況からみた態度得点でも、「喫煙家庭」4.47(±1.94)、「非喫煙家庭」5.20(±1.92)であり、「非喫煙家庭」が有意に高得点であった。

#### 5. 行動特性

「禁煙圧力行動」(表4)では、「ある」57.2%であり、「喫煙回避行動」では、「他の場所へ移る」51.0%、「我慢してその場所にいる」28.3%、「気にせずその場所にいる」20.7%であった。「喫煙拒否行動」では、「はっきり断る」が69.9%と多く、「一本なら喫煙する」6.5%、「断りきれず喫煙する」2.8%であった。

現在の喫煙状況は、「喫煙したことがない」79.7%、「今は喫煙していない」15.4%、「時々喫煙している」2.8%、「毎日喫煙している」2.1%であった。

性別にみると(表4)、否定的行動のすべてにおいて女子が有意に高率であった。また、家族の喫煙状況の比較(表5)では、「禁煙圧力行動」において「喫煙家庭」が、「喫煙回避行動」において「非喫煙家庭」が、現在の喫煙状況では「非喫煙家庭」が有意に高率であった。

#### 6. 行動得点

行動得点(行動4項目の得点の合計点)の平均(±標準偏差)は2.73であった。性別からみた行動得点では、男子2.42(±1.08)、女子3.11(±0.91)であり、女子が有意に高得点であった。また、家族の喫煙状況からみた行動得点は、「喫煙家庭」2.79(±1.09)、「非喫煙家庭」2.64(±1.02)であり、「喫煙家庭」が有意に高得点であった。

#### 7. 知識、態度、行動項目の関係

知識得点と態度特性の関係(表6)は、態度項目の否定的態度のすべてにおいて、知識の3群間に有意差がみられ、高得点群、中得点群は低得点群に比べて高率であった。

知識得点と行動特性の関係(表7)は、「禁煙圧力行動」、「喫煙拒否行動」、「喫煙回避行動」の3項目の否定的行動において、知識の3群間に有意差がみられ、高得点群、中得点群は低得点群に比べて高率であった。

態度得点と行動特性の関係(表8)は、行動項目の否定的行動のすべてにおいて、態度の3群間に有意な差がみられ、高得点群、中得点群、低得点の順に高率であった。

表2 態度特性の比較<sup>1)</sup> (%)

態度項目		男子	女子	合計
成人の喫煙	否定的：悪い	133(16.4)	158(23.5)***	291(19.6)
	中間的：分からない	115(14.2)	126(18.8)	241(16.3)
	肯定的：悪くない	564(69.5)	387(57.7)	951(64.1)
未成年の喫煙	否定的：悪い	402(49.5)	453(67.5)***	855(57.7)
	中間的：分からない	99(12.2)	96(14.3)	195(13.1)
	肯定的：悪くない	311(38.3)	122(18.2)	433(29.2)
喫煙の健康影響	否定的：危険	655(80.7)	614(91.5)***	1269(85.6)
	中間的：分からない	49( 6.0)	32( 4.8)	81( 5.5)
	肯定的：危険ない	108(13.3)	25( 3.7)	133( 9.0)
喫煙行為	否定的：自分勝手	159(19.6)	181(27.0)***	340(22.9)
	中間的：分からない	46( 5.7)	69(10.3)	115( 7.8)
	肯定的：個人自由	607(74.8)	421(62.7)	1028(69.3)
喫煙者との同席	否定的：不快	606(74.6)	598(89.1)***	1204(81.2)
	中間的：分からない	33( 4.1)	28( 4.2)	61( 4.1)
	肯定的：思わない	173(21.3)	45( 6.7)	218(14.7)
現在の喫煙の意思	否定的：吸わない	666(82.0)	628(93.6)***	1294(87.3)
	中間的：分からない	87(10.7)	28( 4.2)	115( 7.8)
	肯定的：吸いたい	59( 7.3)	15( 2.2)	74( 5.0)
将来の喫煙の意思	否定的：吸わない	608(74.9)	627(93.4)***	1235(83.3)
	中間的：分からない	103(12.7)	33( 4.9)	136( 9.2)
	肯定的：吸う	101(12.4)	11( 1.6)	112( 7.6)
親となった時の子どもの喫煙	否定的：させない	271(33.4)	282(42.0)***	553(37.3)
	中間的：分からない	184(22.7)	145(21.6)	329(22.2)
	肯定的：20歳いい	357(44.0)	244(36.4)	601(40.5)
対象者の数		812	671	1483

\*\*\*: P<0.01 (χ<sup>2</sup>検定)

1) 否定的と中間的+肯定的の比較 (df=1)

表3 家族の喫煙状況と態度特性の比較<sup>1)</sup> (%)

態度項目		喫煙家庭	非喫煙家庭	合計
成人の喫煙	否定的：悪い	140(15.3)	151(26.5)***	291(19.6)
	中間的：分からない	134(14.7)	107(18.8)	241(16.3)
	肯定的：悪くない	639(70.0)	312(54.7)	951(64.1)
未成年の喫煙	否定的：悪い	514(56.3)	341(59.8)	855(57.7)
	中間的：分からない	118(12.9)	77(13.5)	195(13.1)
	肯定的：悪くない	281(30.8)	152(26.7)	433(29.2)
喫煙の健康影響	否定的：危険	759(83.1)	510(89.5)***	1269(85.6)
	中間的：分からない	58( 6.4)	23( 4.0)	81( 5.5)
	肯定的：危険ない	96(10.5)	37( 6.5)	133( 9.0)
喫煙行為	否定的：自分勝手	182(19.9)	158(27.7)***	340(22.9)
	中間的：分からない	69( 7.6)	46( 8.1)	115( 7.8)
	肯定的：個人自由	662(72.5)	366(64.2)	1028(69.3)
喫煙者との同席	否定的：不快	721(79.0)	483(84.7) **	1204(81.2)
	中間的：分からない	44( 4.8)	17( 3.0)	61( 4.1)
	肯定的：思わない	148(16.2)	70(12.3)	218(14.7)
現在の喫煙の意思	否定的：吸わない	777(85.1)	517(90.7)***	1294(87.3)
	中間的：分からない	77( 8.4)	38( 6.7)	115( 7.8)
	肯定的：吸いたい	59( 6.5)	15( 2.6)	74( 5.0)
将来の喫煙の意思	否定的：吸わない	729(79.8)	506(88.8)***	1235(83.3)
	中間的：分からない	99(10.8)	37( 6.5)	136( 9.2)
	肯定的：吸う	85( 9.3)	27( 4.7)	112( 7.6)
親となった時の子どもの喫煙	否定的：させない	256(28.0)	297(52.1)***	553(37.3)
	中間的：分からない	215(23.5)	114(20.0)	329(22.2)
	肯定的：20歳いい	442(48.4)	159(27.9)	601(40.5)
対象者の数		913	570	1483

\*\*\*: P<0.01, \*\*: P<0.05 (χ<sup>2</sup>検定)

1) 否定的と中間的+肯定的の比較 (df=1)

表4 行動特性の比較 (%)

行動項目		男子	女子	合計
禁煙圧力行動	否定的：ある	386(47.5)	463(69.0)***	849(57.2)
	肯定的：ない	426(52.5)	208(31.0)	634(42.8)
	合計	812	671	1483
喫煙回避行動 <sup>1)</sup>	否定的：他の場所へ	337(41.6)	419(62.5)***	756(51.0)
	中間的：我慢して	227(28.0)	192(28.7)	419(28.3)
	肯定的：気にしない	247(30.5)	59( 8.8)	306(20.7)
合計	811	670	1481	
喫煙拒否行動 <sup>1)</sup>	否定的：はっきり断る	493(60.7)	543(80.9)***	1036(69.9)
	中間的：分からない	205(25.2)	104(15.5)	309(20.8)
	肯定的：断れず吸う	40( 4.9)	2( 0.3)	42( 2.8)
	肯定的：一本なら吸う	74( 9.1)	22( 3.3)	96( 6.5)
合計	812	671	1483	
現在の喫煙状況 <sup>1)</sup>	否定的：吸ったことない	567(69.8)	615(91.7)***	1182(79.7)
	中間的：今は吸わない	183(22.5)	46( 6.9)	229(15.4)
	肯定的：時々吸う	32( 3.9)	9( 1.3)	41( 2.8)
	肯定的：毎日吸う	30( 3.7)	1( 0.1)	31( 2.1)
	合計	812	671	1483

\*\*\*: P<0.01 (χ<sup>2</sup>検定)

1) 否定的と中間的+肯定的の比較 (df=1)

表5 家族の喫煙状況と行動特性の比較 (%)

行動項目		喫煙家庭	非喫煙家庭	合計
禁煙圧力行動	否定的：ある	637(69.8)***	212(37.2)	849(57.2)
	肯定的：ない	276(30.2)	358(62.8)	634(42.8)
	合計	913	570	1483
喫煙回避行動 <sup>1)</sup>	否定的：他の場所へ	430(47.2)	326(57.2)***	756(51.0)
	中間的：我慢して	274(30.1)	145(25.4)	419(28.3)
	肯定的：気にしない	207(30.5)	99(17.4)	306(20.7)
合計	911	570	1481	
喫煙拒否行動 <sup>1)</sup>	否定的：はっきり断る	624(68.3)	412(72.3)	1036(69.9)
	中間的：分からない	197(21.6)	112(19.6)	309(20.8)
	肯定的：断れず吸う	31( 3.4)	11( 1.9)	42( 2.8)
	肯定的：一本なら吸う	61( 6.7)	35( 6.1)	96( 6.5)
合計	913	570	1483	
現在の喫煙状況 <sup>1)</sup>	否定的：吸ったことない	712(78.0)	470(82.5) **	1182(79.7)
	中間的：今は吸わない	145(15.9)	84(14.7)	229(15.4)
	肯定的：時々吸う	30( 3.3)	11( 1.9)	41( 2.8)
	肯定的：毎日吸う	26( 2.8)	5( 0.9)	31( 2.1)
	合計	913	570	1483

\*\*\*: P<0.01 (χ<sup>2</sup>検定)

1) 否定的と中間的+肯定的の比較 (df=1)

#### IV. 考 察

青少年を対象とした喫煙関連疾患等の知識に関する調査では、中学生<sup>4)</sup>、高校生<sup>5)</sup>、大学生<sup>6)</sup>とも肺ガン、気管支炎については良く知っているが、心臓病、十二指腸潰瘍についてはあまり知らないことが報告されており、本調査の高校生の「心臓病への影響」の正答率も低く同様の結果であった。このことは、喫煙と心臓病の関係についての知識はまだ定着していないことを示しており、今後、喫煙と心臓病に関する知識を定着

表6 知識得点と態度特性の比較<sup>1)</sup> (%)

知識得点		低得点群 0～4点	中得点群 5～7点	高得点群 8～10点	3群の 比較 <sup>1)</sup>
成人の喫煙	否定的態度	21(10.0)	136(17.5)	109(27.1)	0.01
	中間的+肯定的	189(90.0)	642(82.5)	37(72.9)	
未成年の喫煙	否定的態度	90(42.9)	468(60.2)	297(60.0)	0.01
	中間的+肯定的	120(57.1)	310(39.8)	198(40.0)	
喫煙の健康影響	否定的態度	144(68.6)	682(87.7)	443(89.5)	0.01
	中間的+肯定的	66(31.4)	96(12.3)	52(10.5)	
喫煙行為	否定的態度	27(12.9)	182(23.4)	131(26.5)	0.01
	中間的+肯定的	183(87.1)	596(76.6)	364(73.5)	
喫煙者との同席	否定的態度	145(69.0)	650(83.5)	409(82.6)	0.01
	中間的+肯定的	65(31.0)	128(16.5)	86(17.4)	
現在の喫煙の意思	否定的態度	168(80.0)	689(88.6)	437(88.3)	0.01
	中間的+肯定的	42(20.0)	89(11.4)	58(11.7)	
将来の喫煙の意思	否定的態度	161(76.7)	665(85.5)	409(82.6)	0.01
	中間的+肯定的	49(23.3)	113(14.5)	86(17.4)	
親となった時の 子どもの喫	否定的態度	48(22.9)	298(38.3)	207(41.8)	0.01
	中間的+肯定的	162(77.1)	480(61.7)	288(58.2)	
対象者の数		210	778	495	—

1)  $\chi^2$ 検定による比較での有意水準 (df=1)

表7 知識得点と行動特性の比較 (%)

知識得点		低得点群 0～4点	中得点群 5～7点	高得点群 8～10点	3群の 比較 <sup>1)</sup>
禁煙圧力 行動	否定的：ある	103(49.0)	461(59.3)	285(57.6)	0.05
	肯定的：ない	107(51.0)	317(40.7)	210(42.4)	
	合計	210	778	495	
喫煙拒否 行動 <sup>2)</sup>	否定的：他の場所へ	81(38.6)	413(53.2)	262(52.9)	0.01
	中間的：我慢する	58(27.6)	225(29.0)	136(27.5)	
	肯定的：気にしない	71(33.8)	138(17.8)	97(19.6)	
	合計	210	776	495	
喫煙回避 行動 <sup>2)</sup>	否定的：はっきり断る	128(61.0)	556(71.5)	352(71.1)	0.01
	中間的：分からない	58(27.6)	145(18.6)	106(21.4)	
	肯定的：断れず吸う	7(3.3)	16(2.1)	19(3.8)	
	肯定的：一本なら吸う	17(8.1)	61(7.8)	18(3.6)	
	合計	210	778	495	
現在の喫 煙状況	否定的：吸ったことない	170(81.0)	624(80.2)	388(78.4)	N.S.
	否定的：今は吸わない	31(14.8)	124(15.9)	74(14.9)	
	肯定的：時々吸う	5(2.4)	17(2.2)	19(3.8)	
	公的的：毎日吸う	4(1.9)	13(1.7)	14(2.8)	
	合計	210	778	495	

1)  $\chi^2$ 検定による比較での有意水準

2) 否定群と中間群+肯定群の比較 (df=1)

させるための学習の工夫が必要と考える。

「妊婦喫煙の害」については男子より女子の正答率が高かった。この「妊婦喫煙の害」の正答率が男女で異なることは、小川ら<sup>4)</sup>や村松らの調査<sup>7)</sup>においても報告されている。また、「タバコCM」、「タバコの消費量」の正答率においては男女とも低率であるが、女子に比べいずれも男子の方が高率であった。このことは、タバコに関する社会的知識の興味・関心が女子に比べて強いことを示している。村松ら<sup>8)9)</sup>は、タバコCM視聴後に小・中学生のタバコに対するイメージが「肯定方向」に変容することを報告しているが、高校生に関しても同様の影響が予測される。青少年の喫煙防止を考えると、タバコCMの放映や社会全般の喫煙環境の制限（父母の非喫煙・自動販売機の撤去・非喫煙環境の拡大など）が必要であると言える。

今回の高校生の喫煙に関する態度は、すべてにおいて否定的であるとは言えなかった。否定的な態度が高率を示した項目は将来や現在の喫煙の意思、喫煙の健康影響、喫煙者と同席したときの感情等、自分と密接にかかわる喫煙の態度を尋ねた項目であった。また、否定的な態度が低率を示した項目は成人の喫煙、未成年の喫煙、喫煙行為、将来の子供の喫煙等、直接自分とは関係のない他人の喫煙の態度を尋ねた項目であった。これはタバコが嗜好品であり、法律で成人の喫煙は認められていることから、自分は喫煙しないが他人の喫煙は自由だという、喫煙に対する寛容的・許容的な考えが強いと言える。

小川ら<sup>4)</sup>は、中学生は「中・高校生の喫煙に対して81%が否定的であるが、大人の喫煙に対しては31%が

表8 態度得点と行動特性の比較 (%)

態度得点		低得点群 0～3点	中得点群 4～5点	高得点群 6～8点	3群の 比較 <sup>1)</sup>
禁煙圧力 行動	否定的：ある	157(42.2)	338(58.3)	354(66.7)	0.01
	肯定的：ない	215(57.8)	242(41.7)	177(33.3)	
	合計	372	580	531	
喫煙拒否 行動 <sup>2)</sup>	否定的：他の場所へ	74(19.9)	310(53.5)	372(70.2)	0.01
	中間的：我慢する	81(21.8)	197(34.0)	141(26.6)	
	肯定的：気にしない	217(58.3)	72(12.4)	17(3.2)	
	合計	372	579	530	
喫煙回避 行動 <sup>2)</sup>	否定的：はっきり断る	118(31.7)	442(76.2)	476(89.6)	0.01
	中間的：分からない	156(41.9)	104(17.9)	49(9.2)	
	肯定的：断れず吸う	37(9.9)	5(0.9)	0(0.0)	
	肯定的：一本なら吸う	61(16.4)	29(5.0)	6(1.1)	
	合計	372	580	531	
現在の喫 煙状況	否定的：吸ったことない	197(53.0)	492(84.8)	493(92.8)	0.01
	否定的：今は吸わない	106(28.5)	85(14.7)	38(7.2)	
	肯定的：時々吸う	39(10.5)	2(0.3)	0(0.0)	
	公的的：毎日吸う	30(8.1)	1(0.2)	0(0.0)	
	合計	372	580	531	

1)  $\chi^2$ 検定による比較での有意水準

2) 否定群と中間群+肯定群の比較 (df=1)

否定的である」と、川畑ら<sup>10)</sup>は「未成年者の喫煙に対して厳しく、成人男子の喫煙に対して寛容的である」と報告している。しかし、本研究の高校生からは未成年の喫煙に対しても寛容な態度が感じられる。

野津<sup>11)</sup>は、親の態度と行動は高校生の現在の喫煙行動において重要な影響要因であるのみならず、将来の喫煙意思においてもこれらの要因はほぼ同等に重要な関連要因であり、子供の喫煙を反対、禁止するのは母親が父親の約2倍あり、父親は概して子供の喫煙に対して寛大であり、親が子供の喫煙に寛容的である者ほど喫煙者率が高いことを報告している。青少年を喫煙させないためには、家庭における家族の、特に親の喫煙に対する厳しい否定的態度や行動を促すことが重要である。

「未成年者の喫煙」、「成人の喫煙」、「将来の喫煙の意思」をはじめとする喫煙に対する否定的態度は、すべての項目において女子及び非喫煙家庭の者が高率であった。川畑ら<sup>10)</sup>によると、「女子の喫煙」に対する態度は否定的であり、村松ら<sup>7)</sup>によっても、「女性の喫煙」に対するイメージはマイナスイメージが高いことが報告されており、我が国の一般社会における「女性の喫煙」に対する態度は否定的であることを示している。

本研究における高校生（2年生）の喫煙経験率は男子30.2%、女子8.3%であり、「毎日喫煙+時々喫煙」は男子7.6%、女子1.4%であった。高校2年生の喫煙状況については、川畑らの調査<sup>10)</sup>では、男子18.4%、女子6.3%が「現在喫煙している」としており、安栄の調査<sup>12)</sup>では、男子32.3%、女子3.6%が「定期的に週1本以上喫煙している」ことが報告されている。また、白水ら<sup>13)</sup>は、男子12.9%、女子3.6%が「喫煙者」であるとしており、養輪ら<sup>14)</sup>は、男子20.5%、女子5.7%が「現在喫煙者」であるとしている。研究者によって、喫煙者の定義は異なるが、本研究における喫煙者率は他の調査に比べて若干低率であった。

我が国の未成年者の喫煙者率は成人同様、男子が女子を大きく上回っていることはすでに指摘されており<sup>15)</sup>、また、青少年の喫煙状況は家族の喫煙状況や周囲の対人関係、特に友人の影響を受けることも指摘されている<sup>16)-17)</sup>。

知識と態度については、項目、得点ともに関連がみられた。否定的態度すべての項目において知識の「低得点群」が他の2群（中得点群及び高得点群）に比べて低率であり、知識の「低得点群」は態度得点も他の2群に比べて低かった。知識と態度の関係については、村松ら<sup>7)</sup>は、成人・未成年の喫煙に否定的態度である者は肯定的態度である者より、知識の正答数が多く、喫煙の知識と態度は密接に関連していることを報告している。

知識と行動の関係については、現在の喫煙状況を除く、禁煙圧力行動、喫煙回避行動、喫煙拒否行動にお

ける否定的行動は、知識の「高得点群」が「低得点群」に比べて高率であり、態度も同様の傾向を示した。富永ら<sup>18)</sup>は、胃ガンやぜんそくなど喫煙関連疾患についての知識は、喫煙経験者の方が高いという結果を示している。また、McGuffinの調査<sup>19)</sup>では、知識得点が高い者ほど望ましい保健行動をすることが示されている。川畑ら<sup>10)</sup>は、急性影響や長期的影響の知識と喫煙行動には関連がみられなかったことを報告しており、本研究の結果と同様であった。

以上のことから喫煙に関する正しい知識は喫煙に関する望ましい態度や否定的なイメージを形成し、否定的行動、すなわち喫煙拒否、回避行動に変容することが示唆された。高校生の喫煙に関する知識、態度、行動は相互に関連しており、また、性別や家族の喫煙状況とも関わっていることが示された。

## V. 要 約

本研究は、高校生が喫煙に関してどの程度の知識を持ち、どのような態度や行動を持っているかを把握すること、すなわち、高校生の喫煙アセスメントを目的として、1993年6月に愛知県下の高校2年生の男女1483名を対象にして行なった結果、次の成績を得た。

(1) 喫煙の知識の正答率では、「妊婦喫煙の害」が91.8%と最も高率を示し、「心臓病への影響」、「タバコCM」、「タバコの消費量」は低率であった。「タバコCM」、「タバコの消費量」、「心臓病への影響」においては男子が、「一酸化炭素の作用」、「妊婦喫煙の害」、「タール等による空気汚染」においては女子が有意に高率であり、性差がみられた。

(2) 「成人の喫煙」、「喫煙行為」、「親となった時の子供の喫煙」では否定的な態度が低率であり、「現在の喫煙の意思」、「未成年の喫煙」、「将来の喫煙の意思」では否定的な態度は高率であった。

(3) 喫煙経験率は20.3%（男子30.2%、女子8.3%）であり、喫煙者率は4.9%（男子7.6%、女子1.4%）であった。喫煙に関する否定的行動は全ての項目において女子が、また、非喫煙家庭が有意に高率であった。

(4) 以上のことから、高校生の喫煙に関する知識、態度、行動は相互に関連しており、性別や家族の喫煙状況とも関わっていることが示された。

今後、喫煙と心臓病についての知識やたばこの消費量やCMについての社会的知識の定着を図るとともに、性別や家族の喫煙状況と深く関わっていることから、これらを考慮した喫煙防止学習の準備が必要と考える。

## 参 考 文 献

- 1) 日本学校保健会：高等学校、喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する保健指導の手引き、第一法規、1988、7-11
- 2) 石川哲也：喫煙防止教育の現状と問題点、学校保健研究、

- 27(12), 1985, 552-556
- 3) 村松常司：禁煙教育，教育思潮読本，79，1991，145-148
  - 4) 小川浩，富永祐民：中学生の喫煙，日本公衛誌，32(6)，1985，305-314
  - 5) 伊藤雅夫：高校生の喫煙の状況について，日本公衛誌，26(10)，1979，650
  - 6) 重信卓三，中丸澄子，川越和子，他：大学生の喫煙(1)，男子学生の喫煙，広島医学，36(3)，1983，94-100
  - 7) 村松常司，野村和雄，北井美奈子，他：喫煙に対するイメージ・知識・態度及び行動に関する研究，第1報，高校生を対象とした調査結果，学校保健研究，36(5)，1994，339-349
  - 8) 村松常司，吉田真司，村松園江，他：テレビたばこCMの放映状況とCMに対する小学生のイメージ，学校保健研究，32(5)，1990，230-238
  - 9) 村松常司，野村和雄，北井美奈子，他：テレビたばこCMによる中学生の喫煙に対するイメージへの影響，学校保健研究，36(7)，1994，487-495
  - 10) 川畑徹朗，高橋浩之，黒羽弥生，他：中・高生の喫煙行動および喫煙に対する態度と知識，東京大学教育学部紀要，24，1984，181-207
  - 11) 野津有司：青少年の喫煙に関する調査研究，第4報，高校生の喫煙行動における親の態度と行動との相対的重要性について，学校保健研究，29(5)，1987，229-235
  - 12) 安栄鉄男：中学生，高校生ならびに非行少年についての喫煙に関する調査研究，学校保健研究，12(10)，1970，465-474
  - 13) 白水美智子，廣畑富雄，柴田彰，他：高校生の喫煙と諸因子との関連，第1報，喫煙開始及び喫煙継続にかかわる要因，学校保健研究，28(12)，1986，589-596
  - 14) 養輪真澄，尾崎米厚，木村博和：中高生の喫煙，青少年の喫煙実態に関する全国調査報告書，1992
  - 15) 富永祐民：日本における喫煙の実態，病態生理，7，1988，679-683
  - 16) 喫煙と健康に関する調査研究班：喫煙と健康に関する調査研究，昭和55年度健康づくり等調査研究報告書，1980
  - 17) 野津有司：青少年の喫煙に関する調査研究，第2報，高校生の喫煙行動に関連する諸要因の検討，学校保健研究，27(4)，1985，190-200
  - 18) 富永祐民，小川浩：中学生の喫煙行動および喫煙に対する態度と知識，昭和55年度健康づくり等調査研究報告書，1981，219-232
  - 19) McGuffin, S. J.: Health knowledge and behavior of fifthformers, Health Education Journal, 38, 1979, 107-110

(平成8年9月6日受理)